

吉野復興大臣の福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年10月21日(土) 10:59~11:04 於) 双葉郡富岡町)

1. 発言要旨

おはようございます。今日は竜田・富岡間、この常磐線が開通をいたしました。やっぱりふるさとにとって、電車が走る、このことは復興のシンボルでございます。JRの皆様方、本当に感謝を申し上げたいと思います。

また、ここ富岡駅、古い駅から約100メートルくらい北に向かって作られております。そして、「さくらステーションK I N O N E」、これも今日オープンをいたしました。コンビニと軽食と食堂という形で、なかなか周りにお店がございません。そういう意味では、本当に役に立つ、そういう施設になるのかな、こんな想いです。

富岡町は4月1日に避難指示を解除したわけでありましてけれども、まだまだ多くの方が戻ってきておりません。戻ってくる、こないは個人の判断でありますけれども、町としては、環境整備を十分に整えて、一人でも多くの町民の方々が戻ってこられる環境づくりをしていく、これが町政だと思います。そういう意味で、まずは駅の開通、そして、コンビニができたということ、そういう生活環境整備が整いつつあるんだな、復興を本当に進めているんだな、こんな思いを今日はさせていただいているところです。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 式典でJR東日本の富田社長もおっしゃっていましたが、2019年度の末までに富岡以北、浪江までの間、再開通を目指して一日も早く取り組むということでしたが、国として今後の延伸に関してどのように支援に取り組んでいかれるのかお聞かせいただけますか。

(答) 富田社長があと2年半で全線開通するということをおっしゃいました。正に私も今、選挙運動真っ最中でございますので、仮設、そして避難をしている方々、双葉町、大熊町の方々に、あと2年半で駅がオープンするんだから、一番電車にみんな乗ってねと、こう言うと、目を輝かせます。鉄道というものはやっぱり復興のシンボル、具体的にイメージできるものでございますので、目を輝かせる方々がたくさんおられるということで、本当に早く開通していきたいなど、このように思っています。

(問) 今もありましたけれども、町にとって電車が復旧するということの重要性というのを改めてどうお考えですか。

(答) やっぱり復興のシンボル、町の再生、復興を成し遂げていく上で、電車が走っているということは、心に希望が湧く、そういうシンボリックな存在が私は電車だと、このように考えていますので、それがなされたということは、心の支えが一つ生まれた。こんな気持ちです。

(問) それからもう一点、お店もできて、電車もできた。これからまた町に人が戻ってくるかと思えますけれども、それと同時に、まだなかなか戻ってこない方々もいる。そういう方々のためにどうしたらいいか、お考えを。

(答) 私も県外に避難している方々と今、意見交換をしているところですが、こう言うんです。戻ってくる、こないは皆さんの判断です。震災前まではここまでインフラ整備ができていましたけれども、ここまでは整備ができて、これで帰れるという判断をする方と、これではまだまだ帰れないという判断をする方と、一人一人、様々なものですから、自分の判断で、今、ここまでは整備されていますよということをきちんと伝えていく。これがいかに大事なかなというような、そんな印象を持っています。

(以 上)